

IV 授業モデル2 (中学校第3学年 論旨を捉えて「作られた『物語』を超えて」)

- 1 単元名 作られた「物語」を超えて (光村図書 国語3)
 - 2 本時の実際 (2/3)
- 目標
- (1) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方を見方や考え方について考えることができる。(思考・判断・表現) 精査・解釈
 - (2) 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示の仕方を捉えることができる。(思考・判断・表現) 構造と内容の把握

授業充実の3ポイント	主な学習活動	時間【形態】	教師の具体的な働きかけ
【目標の明確化】 ○ 興味関心が生まれる導入 ○ 問題意識の焦点化 ○ 学習問題の設定 ○ 解決の予想と見直し	1 前時に書いた初発の感想を振り返る。	5 【一斉】	○ 物語と「物語」の意味の違いに焦点をあてる。 ○ マッピングを使う。
	2 物語から連想される語句を書き出す。		
	3 学習課題を設定する。 筆者は「物語」をどのように捉えているのだろうか。		【生徒の反応】 空想、架空、夢、未来、過去 竹取物語、ハリポッター
	4 本文中の「物語」という語句に注目する。		○ 書くことに課題のある大島地区の生徒に、身に付けさせたい力を意図した学習課題を設定する。 ○ 「物語」の前後の語句に注目させることで、学習課題の解決を目指す。
【山場の工夫】 ○ 自力解決による最初の考え(仮説)の構築	5 「物語」という語句を含んだ部分を抜き出す。 ・人間が作った「物語」 ・「ゴリラは好戦的で凶暴な生き物だ」という「物語」を作り出した。 ・人間がある印象を基に「物語」を作り... ・誤解に基づく「物語」は人間に悲劇をもたらす ・誤解が修復されないまま「物語」が独り歩き ・自分たちに都合のよい「物語」を作り上げ ・その「物語」を真に受け ・「物語」によって作られた常識の陰 など	20 【個人】	○ 教材文に線を引かせる。 ○ ワークシートに抜き出させる。 ○ 文章全体と抜き出した部分との関係に注意しながら、筆者の思いが端的に表れている部分を捉えさせる。
	6 抜き出した部分の語句を班で精査する。 7 精選した文章中の語句を用いて、「物語」を60字以内で説明する。	12 【班】 5 【個人】	【生徒の反応】 作った、作り出した、誤解、独り歩き、作り上げた、真に受け、真実、悲劇
○ 考えの交流(学び合い) ○ 自力解決による最終的な考えの構築	8 本時のまとめをする。 筆者は、「物語」を人間が都合よく作りあげ、誤解を真に受け、それが独り歩きしてしまった悲劇と捉えている。	8 【一斉】	○ 書画カメラで、それぞれがまとめた文章を共有させる。 ※ 叙述に即して、「物語」に込めた筆者の思いをまとめることができる。
	9 物語と「物語」の意味の違いを確認する。 10 本時の学習を振り返る。 ア 「物語」を含んだ部分を抜き出せたか。 イ 「物語」の前後の語句を精査することができたか。 ウ その語句を使ってまとめることができたか。 エ 筆者の意図する「物語」を捉えることができたか。		※ 筆者の思いが端的に表れている部分を抜き出すことができる。 【視点2】 本時の振り返りとして、物語と「物語」を比較させることで、筆者の主張に対する考えの深まりを実感させる。

【次時の学習活動】

【学習課題】 自分がこれから「新しい世界」と出会うためには、どうすればいいだろうか。

- ・教材を通読して、筆者の主張を確認する。
- ・結論部分の語句に着目して、学習課題に対する自分の意見をまとめる。
- ・書いた意見を共有し、考えを深める。

【生徒の意見(予想)】
私は今まで、自分が読んだ本や見聞きしたニュースで知ったことを疑うことなく過ぎてきた。でも、この文章を読んで、人間の作り出した真実ではない「物語」が存在することを知った。知ろうとすること、正しく知ること、真実に近づくと一歩だと思った。友達との付き合いでも人間から聞いたことだけでなく、自分で知って自分で判断することは大切だと思う。

【視点1】
文章全体と部分との関係に注意することで、筆者の主張を捉え、表現できるように気付かせる。

- 【コアティーチャーネットワークプロジェクト国語部員】
立石将大(朝日小)、上山留美(田検小)、福永由香(大勝小)、岩下理佐(早町小)、野元大輔(伊仙小)
野崎結花(朝日中)、松崎裕也(田検中)、松本康子(赤徳中)、大石逸樹(亀津中)、竹之内夕紀(伊仙中)
中野品仁(宇検村教育委員会)、山 宗功(大島教育事務所)

令和2年度

学力定着のためのリーフレット 国語編

=コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラムの一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。大島地区で課題のある単元や指導法に焦点を当てていますので、ぜひ、参考にして日々の授業に生かしましょう。

I 大島地区の国語科の課題 (令和元年度鹿児島県学力定着度調査より)

【領域ごとの県との比較】

【大島地区の無答率が高かった問題】

学年・観点等	H29	H30	R元	学年・観点等	県	地区	無答率		
小5	話す・聞く	-2.0	+4.0	-3.5	小5	表記	44.4%	42.1%	5.5%
	書く	-1.3	+1.4	-1.3		内容	38.0%	37.8%	9.1%
中1	読む	-0.2	-1.7	-1.0	中1	表記	80.1%	77.6%	7.7%
	話す・聞く	-3.8	0.0	-1.3		内容①	91.8%	88.3%	7.7%
中2	書く	-8.1	-5.5	-3.3	中2	内容②	81.4%	77.3%	8.2%
	読む	-5.3	-2.2	-0.5		表記	79.9%	77.0%	12.2%
中2	話す・聞く	-0.7	-3.9	+3.1	中2	内容①	78.1%	76.9%	12.2%
	書く	-5.8	-6.0	-1.5		内容②	68.2%	67.8%	12.8%
中2	読む	-4.4	-2.0	+1.7					

〈全体的傾向〉

- 小学校第5学年…H30年度に上回っていた領域が、R元年度は下回っている。
- 中学校第1・2学年…R元年度では、中学2年は県平均を上回ったが、1年は下回っている。

〈領域別傾向〉

- R元年度では、県平均を下回っているものの、H30年度より差が縮まった領域が多い。
- H30年度より「読むこと」の領域が改善されているが、依然としてどの学年でも「書くこと」の領域において県平均との差が見られる。
- 資料や文章を参考にして自分の意見を書く問題において、無答率が高い。

大島地区国語科の課題

～自分の考えを書いて表現するための目的をもった読み取り～

II 授業づくりのポイント

大島地区の課題を踏まえた授業づくり		学習内容等の定着を図る「確かめ見届け」の充実	
視点1 児童生徒の「読む」力を伸ばし、「書く」力につなげるための指導になっているか。	視点2 学びの深まりや変容が実感できる学習になっているか。		
単元構想における視点 □ 相手意識・目的意識を明確にした言語活動の設定 □ 児童生徒に付けさせたい力を意図した学習課題の設定	本時の展開における視点 □ 考えの根拠となる叙述に着目して、自分の考えをもたせる場面設定 □ 対話を通して広がった深まったりした思考を発達段階に応じた分量の文章で表現する場面設定	単元構想における視点 □ 身に付けた力を実感できる学習の振り返り □ 単元の学びを実感できる振り返りをさせ、一般化させる。	本時の展開における視点 □ 本時の振り返りとして、自分の考えの変容とその理由を明らかにさせる。 □ 1単位時間の学びを実感できる振り返りをさせ、一般化させる。

視点による具体策

	小学校	中学校
視点1 の工夫	<p>◇ 学習課題を設定し、解決の見通しをもつ。</p> <p>事例1は、実際に経験したことがあるから、すぐ納得できるな。</p> <p>事例2は、グラフがあり分かりやすかったよ。事例3はちょっと分からないなあ。</p> <p>どうして事例が四つあるのかな。</p> <p>筆者はどのような意図で四つの事例を挙げたのだろう。</p> <p>事例のどこに納得したり、共感したりできたかな。</p> <p>◇ 自分の考えを再構築する。</p> <p>考えの根拠となる叙述に着目して、自分の考えをもたせる場面設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例3に納得した人が少ないね。じゃあ、事例3は、なくてもいいかな。 事例4は、多くの人が納得しているから先にあってもいいんじゃないかな。 	<p>本文中の「物語」という語句に注目してみよう。</p> <p>対話を通して広がり深まりたりした思考を発達段階に応じた分量の文章で表現する場面設定</p> <p>◇ 精選した文章中の語句を用いて、「物語」を60字以内で説明する。</p> <p>どの語句を使ったらいいかな。</p> <p>『作った』『作り出した』は同じような表現だからまとめよう。</p> <p>『悲劇』という言葉も大事そうじゃないかな。</p> <p>読み取ったことを基にすれば、筆者の考えをまとめられそう</p>
	視点2 の工夫	<p>本時の振り返りとして、自分の考えの変容とその理由を明らかにさせる。</p> <p>◇ 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かったこと なるほどと思ったこと 考えが変わったこと 生かしたいことなど <p>わたしは、事例3に納得できなかったけれど、筆者が必要だと思うことを事例に挙げていることが分かったよ。</p> <p>複数の事例を挙げるときは、順序も大事だと分かった。自分も文章を書くときに生かしたいな。</p>

Ⅲ 授業モデル

<p>それでは、授業づくりの視点を踏まえて、令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。</p>
<p>1 単元名 第6学年「筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう」(全7時間)</p> <p>2 目標</p> <p>ア 原因と結果など情報と情報の関係について理解することができる。(知識・技能)</p> <p>イ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(思考・判断・表現)</p> <p>ウ 進んで主張とそれを支える事例との関係について読みを深め、学習課題に沿って自分の考えをまとめたり、話し合ったりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>3 本時の指導のポイント</p> <p>【視点1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対する直感的な考えから、考えの根拠となる叙述に着目して、自分の考えをもつことができるように、見通しをもたせる。 学習課題に対する考えを、四つの事例の取り上げ方に着目したり、叙述を読み直したりさせ、自分の考えを再構築させる。 <p>【視点2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの変容とその理由(過程)を明らかにするために、学習を振り返らせる。

4 本時の目標

事例と事例を比較しながら読むことを通して、主張を支える事例同士の関係に気付く、筆者の書き方の意図を説明することができる。

5 本時の実際(5/7)

授業充実の3ポイント	学習活動と予想される生徒の反応	時間【形態】	教師の具体的な働きかけ
<p>【目標の明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味関心が生まれる導入 課題(問題)意識の焦点化 <p>○ 学習課題の設定</p> <p>○ 解決の予想と見通し</p>	<p>1 学習計画と前時の学習内容を振り返る。</p> <p>2 本文の事例について、思ったことを話し合う。</p> <p>事例1は、実際に経験したことがあるから、すぐ納得できるな。</p> <p>事例2は、グラフがあって分かりやすかったよ。</p> <p>3 学習課題を設定する。</p> <p>筆者はどのような意図で四つの事例を挙げたのだろうか。</p> <p>4 学習課題に対する自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 納得させるため。 共感してほしいから。 <p>事例のどこに納得したり、共感したりできたかな。</p>	<p>2【一斉】</p> <p>3【一斉】</p> <p>2【一斉】</p>	<p>○ 単元名の「筆者の主張や意図をとらえ」に着目させ、本時では筆者がその事例を用いた意図について考えることに焦点化させる。</p> <p>○ 前時までに作成した構成図を基に、事例を確認したり、思ったことを話し合ったりして、複数の事例と「心の時間」との関係結び付けて考えることができるようにする。</p> <p>視点1</p> <p>○ 学習課題に対する直感的な考えから、考えの根拠となる叙述に着目して、自分の考えをもつことができるように、見通しをもたせる。</p> <p>○ 納得したもや意見文に取り入れたものに名前カードを貼らせ、自分や友達との共感できる事例がどれか、一目で分かるようにする。</p>
<p>【山場の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決による最初の考えの構築 考えの交流(学び合い) 	<p>5 根拠を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由の基になる叙述に線を引く。 線を引いた理由について考えを簡潔に書く。 <p>6 全体で考えを共有する。</p> <p>事例1の「集中しているの、時間を気にする回数が減ります。」に線を引いたよ。好きな本を読んでいる時、時計を全く見ていなくて、こんなに時間が過ぎていたんだと思うことがあるから。</p> <p>事例2の「私たちの体は、朝、起きたばかりのときや、夜、ねる前は、動きが悪くなります。」に線を引いた人が多いけど、私は、朝の方が集中できて、たくさんことができるなあ。</p> <p>事例3の実験はよく分からないけれど、「身の回りから受ける刺激の多さと関係があります。」のところは納得できるなあ。机の上が散らかっていると勉強に集中できないよね。</p> <p>事例のどこに納得したり、共感したりできたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例3に納得した人が少ないね。じゃあ事例3は、なくてもいいかな。 事例3は、納得している人が少ないから一番最後にしてもいいのじゃないかな。 <p>7 事例の挙げ方や順番について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人によって納得できるものが違う。 共感しやすい順にしている。 身近な事例から挙げている。さらに、実験をして科学的な根拠も示して、納得させている。 <p>8 自分の意見を再構築する。</p> <p>9 本時の学習のまとめをする。</p> <p>筆者は、主張に必要な事例を集め、順序を工夫して、説得力を高めるために事例を挙げた。</p> <p>10 自分の試し作りに挙げたい事例について見直す。</p> <p>11 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かったこと なるほどと思ったこと 生かしたいことなど <p>納得できなかった事例も自分の主張の説得力を高めるためにあるのだと思った。複数の事例を挙げるときは、順序も大事だと分かった。</p>	<p>6【個人】</p> <p>【書けたらペアやグループで考えを交流する】</p> <p>10【一斉】</p> <p>3【個人】</p> <p>3【一斉】</p> <p>3【個人】</p> <p>3【個人】</p>	<p>○ まず、自分が納得できる、または納得できない叙述に線を引かせ、その叙述と自分の考えや意見を結び付けて考えをもつことができるようにする。</p> <p>※ 叙述を基にして自分の考えをもつことができる。</p> <p>○ 選んだ事例について、叙述を基にその理由を話し合わせ、事例の特徴について考えをもつことができるようにする。</p> <p>○ 筆者の事例に対して、否定的な意見も大切に、様々な見方や考え方が、あることにふれさせ、事例を取り上げた意図と結び付けることができるようにする。</p> <p>※ 事例の取り上げ方について、自分の考えや経験と友達の意見なども交えて筆者の意図についてまとめることができる。</p> <p>○ 児童が出した意見を視覚的に分かるようにまとめたり、キーワードを問うたりして、筆者がなぜ複数の事例を挙げて説明したのかを考えることができるようにする。</p> <p>視点1</p> <p>○ 学習課題に対する考えを、四つの事例同士の関係に着目したり、叙述を読み直したりさせ、自分の考えを再構築させる。</p> <p>○ 共感できる人が少ない事例や事例を挙げた順序などについて、筆者が考えた以外の場合の事例の挙げ方について示し、なぜ四つの事例が必要なのか、なぜそのような順序にしたのか筆者の意図について考えようとする意欲を高める。</p> <p>○ 学習課題に対するまとめを自分の言葉でまとめられるようにするために、児童が気付いた筆者の意図を短い言葉で板書する。</p> <p>○ 児童が自分の言葉でまとめたものを基にして全体でまとめを確認する。</p> <p>※ 筆者の主張に対する自分の考えを筆者の意図を踏まえて見直すことができる。</p> <p>視点2</p> <p>○ 自分の考えの変容とその理由(過程)を明らかにするために、言葉による見方・考え方にそって学習をふり返らせる。</p> <p>※ 事例の挙げ方の意図や順序についてふれていく。</p>